

長浜企業景況調査報告書

(第21回)

令和3年 7月～令和3年 9月 実 績
令和3年10月～令和3年12月 見通し

Index

01 長浜企業景況調査について・長浜企業景況調査の見方について

02 全体の景況感（総括）

03 全体の動向

04 調査項目別 DIの推移

05 業種別 業況DIの推移

06 卸売業の動向

07 小売業の動向

08 サービス業の動向

09 建設業の動向

10 製造業の動向

11 設備投資の計画状況

12 新型コロナウイルス感染拡大に係る影響について

13 業種別自由意見

15 【参考】滋賀県景況調査結果報告書

長浜企業景況調査について

1) 調査対象期間・調査時点

調査対象期間：令和3年7月～9月

調査時点：令和3年10月1日

2) 調査方法

長浜商工会議所会員企業 220 社への FAX 方式・メール方式による調査

3) 調査対象企業数

220 社(内訳は下表の通り)

4) 報告者

中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	24	10.9%	19	14.1%	79.2%
小売業	40	18.2%	27	20.0%	67.5%
サービス業	70	31.8%	38	28.1%	54.3%
建設業	32	14.5%	17	12.6%	53.1%
製造業	54	24.6%	34	25.2%	63.0%
合計	220	100.0%	135	100.0%	61.4%

長浜企業景況調査の見方について

1) DI 指数について

- ①調査結果を示す指数として DI 指数を採用しています。この数値は Diffusion Index（景気動向指数）の略で各調査項目について「増加」・「好転」などとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を引いた数値です。
- ②調査項目のうち、「業況(自社)」「売上高」「採算(経常利益)」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入価格」「業界動向(同業他社)」「長・短期資金借入難易度」「受注動向(建設業)」「在庫量(製造業)」の DI 指数は前年同期と比較しています。
- ③「取引の問合せ」と「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

2) DI 指数の見方について

- ①DI 指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気がよい」と判断されます。マイナスであれば「不調」の企業割合が多く「景気が悪い」と判断されます。
- ②この DI 指数を前期(四半期)、今期、来期(見通し)とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。即ち改善方向か悪化方向かという方向感や景気の良い・悪いの推移動向が判断できます。
- ③業況 DI は経営者の景況感を反映しています。主観的な要素も入りますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いため経済活動の実態とよく一致しているといわれています。
- ④資金繰り DI は概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。緊急融資制度や金融円滑化法などの政策が資金繰り DI に影響を与えることがあります。
- ⑤小売業は売上高 DI、卸売業は資金繰り DI、サービス業は従業員 DI の推移が業種別に注目する指数です。
- ⑥建設業は季節による影響が業況 DI に認められています。これは公共工事との連動のため1～3月期は総じて低調な傾向となります。

3) 設備投資の見方について

- ①好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。特に製造業は「好調」「不調」の影響を受けます。

全体の景況感（総括）

「新型コロナの影響下、景況感は足踏み状態にある」

今期

全体の業況DIは、前四半期の7.4から▲17.0と5期ぶりに悪化し再びマイナスになった。前期に比べ「採算（経常利益）」（▲26.3）「売上高」（▲14.8）の各DIが2桁の悪化（それぞれ-27.0、-20.7）となったためと考えられる。なお、業界動向DI（▲30.5）も2桁の悪化（-27.4）となった。

一方、仕入れ価格DIは4期連続で上昇してきた前期の50.0から今期は47.3とやや上昇幅が縮小し、従業員DIは3期連続で不足感が強まってきた前期の18.7から今期は16.3とやや不足感が弱まる結果となった。なお、資金繰りDIが10.5ポイント悪化し▲12.8となり、長短の借入難度DIの悪化傾向が続いている。

業種別では、業況DIは前期から一転し5業種すべてで悪化した。卸売業は、業況DI（▲42.1）が前期比較31.0ポイント悪化したが、これは採算（経常利益）DI（▲47.4、前期比-25.2）、売上高DI（▲42.1、

同-19.9）ともに悪化したためと考えられる。なお、販売価格DI（47.4）が前期比30.7ポイント良化した。仕入れ価格DI（57.9）は同19.0ポイント上昇した。小売業は、業況DI（▲55.6）が前期比41.8ポイント悪化した。これは採算（経常利益）DI（▲66.7、同-49.5）、売上高DI（▲55.6、同-38.4）ともに悪化したためと考えられる。なお、仕入れ価格DI（33.3）は上昇幅が縮小（同-11.1）、販売価格DI（22.2）は3期連続で上昇（同+8.4）した。サービス業は、業況DI（▲13.2）が前期比18.9ポイント悪化し再びマイナスとなった。これは採算（経常利益）DI（▲10.5、同-16.2）、売上高DI（▲7.9、同-25.0）ともに悪化したためと考えられる。建設業は、採算DI（▲6.3）が11.9ポイント悪化しマイナスに転じたが売上高DI（17.6）が23.2ポイント良化しプラスに転じたことから、業況DI（5.9）は悪化したもののプラスを維持した。製造業は、売上高DI（8.8、同-25.5）、採算DI（▲9.1、同-29.1）とも悪化したため、業況DI（11.8）は19.6ポイント悪化した。プラスを維持した。

I（▲22.2）が大幅に改善する（ともに+44.5）ことから業況DI（▲7.4）は48.2ポイント改善する見通しとなった。サービス業は、売上高DI（17.1）および採算DI（20.0）が良化するため、業況DI（22.9）は良化する見通しとなった。建設業は、採算DI（6.3）が良化するも、売上高DI（6.3）及び受注動向DI（▲7.1）が悪化するため、業況DI（6.3）は微増にとどまる見通しとなった。製造業は、売上高DI（▲5.9）、採算DI（▲21.9）ともに悪化することから、業況DI（▲5.9）は悪化する見通しとなった。

ままだった。一方、小売業は13.9ポイント減少（同▲41.7→同▲55.6）し、水準、方向性ともに深刻な業況が窺える。4-6月期で回復を強めるかに見えた全体の業況DIは、7-9月期では一転し足踏み状態になっている。

今期の特徴は、上昇していた仕入れ価格DIに上昇幅が縮小する業種が現れたこと、資金繰りDIが製造業を除く4業種で悪化したことである。

まず、仕入れ価格DIは、卸売業（57.9、前期比+19.0）及び建設業（76.5、同+9.8）で上昇（悪化）した一方、小売業（33.3、同-11.1）、サービス業（26.5、同-7.9）、製造業

（58.8、同-6.9）で上昇幅が縮小（良化）した。ただし、その3業種は来期再び上昇（悪化）すると予測しており、コスト上昇圧力は当面の間収まりそうにないようだ。

次いで、資金繰りDIは建設業（▲13.3、同-35.5）、サービス業（▲10.5、同-19.6）、卸売業（▲26.3、同-15.2）、小売業（▲33.3、同-9.2）で前期比マイナス（悪化）幅が大きい。長短借入難度DIの悪化傾向と併せて今後注視が必要だ。

一方、「設備投資の計画状況」調査結果によると、「設備更新」投資（52.3%）が前期比18.2ポイント増加しトップになり、景気回復期に強まる「生産力増加」投資（27.3%、同-11.7ポイント）と「合理化・省力化」投資（13.6%、同-8.4ポイント）が後退した。なお、「計画通り行う」と答えた割合が前期比77.3%と12.2ポ

イント増加し、投資計画の実行意欲は強まっている。令和3年9月の日銀短観によると、中小企業の設備投資内容ではソフトウェアが製造業、非製造業ともに、研究開発投資が非製造業で高まる傾向にある。ウィズ/アフターコロナ経済に適応した設備投資が進んでいる、といった全国的な流れに注目しておきたい。

コロナ禍からの回復をけん引してきた海外需要の減速、特に中国恒大集団の経営悪化が表面化した中国で景気が減速していることや、東南アジアの感染拡大による半導体製品の供給制約による自動車減産の影響などで製造業の勢いが弱まる中、緊急事態宣言等解除後の国内市場への期待感が強まっている。原油価格や原材料価格の上昇が販売価格等に影響することが懸念されるが、今後の幅広い消費マインドの向上に期待したい。

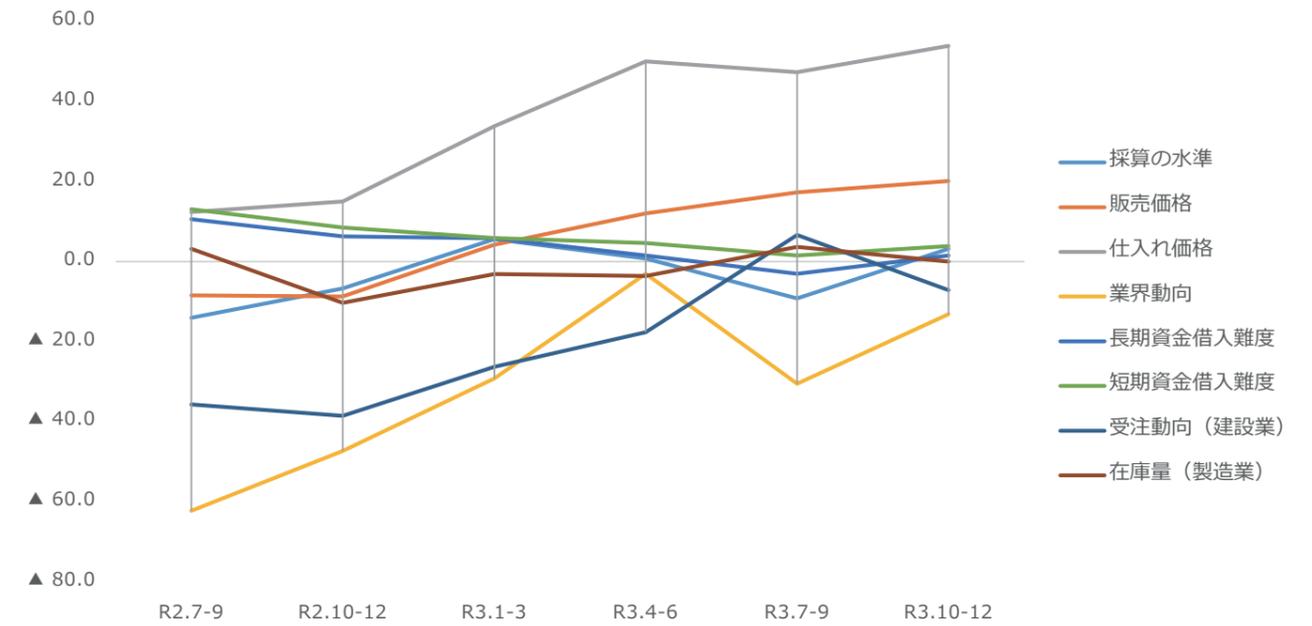
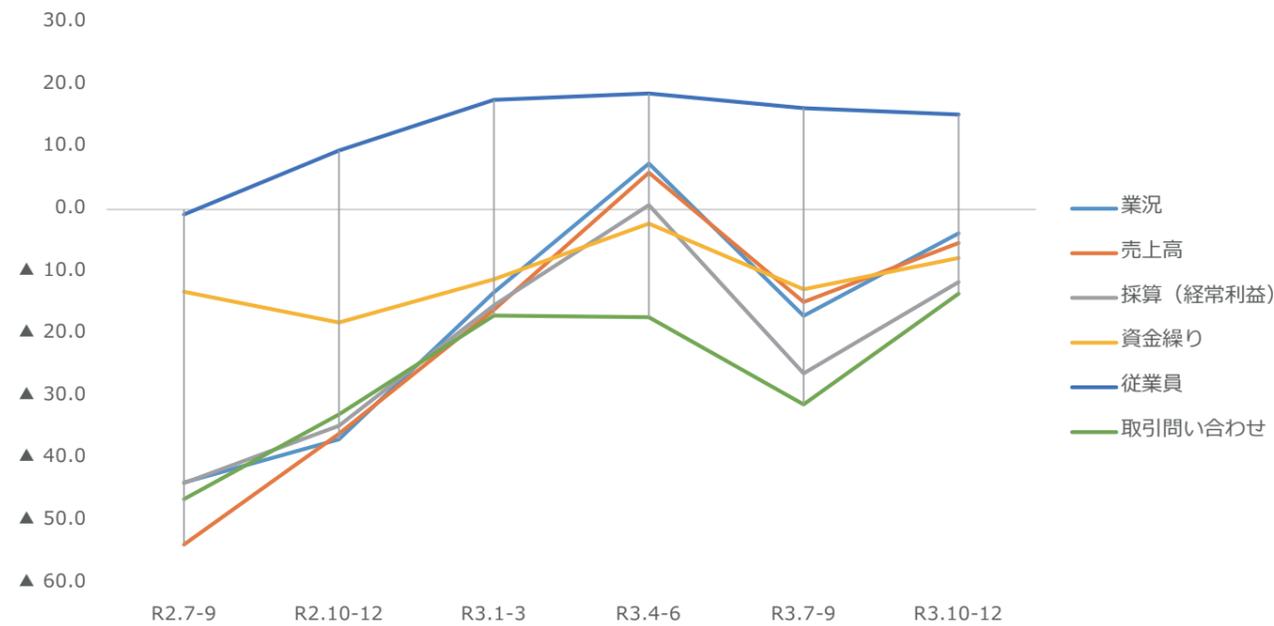
全体の動向

業況	DI指数は前期7.4から今期▲17.0と24.4ポイントの悪化で、次期の見通しは▲3.8と改善する予測となっている。
売上高	DI指数は前期5.9から今期▲14.8と20.7ポイントの悪化で、次期の見通しは▲5.3と改善する予測となっている。
採算（経常利益）及びその水準	採算のDI指数は前期0.7から今期▲26.3と27.0ポイントの悪化で、次期の見通しは▲11.6と改善する予測となっている。また、採算の水準のDI指数は前期0.8から今期▲9.2と10.0ポイントの悪化で、次期の見通しは3.2と良化する予測となっている。
資金繰り	DI指数は前期▲2.3から今期▲12.8と10.5ポイントの悪化で、次期の見通しは▲7.8と改善する予測となっている。
従業員	DI指数は前期18.7から今期16.3と2.4ポイント人手不足感が弱まり、次期の見通しは15.3と更に不足感が弱まる予測となっている。
販売価格及び仕入れ価格	販売価格のDI指数は前期12.0から今期17.3と5.3ポイント良化し、次期の見通しは20.2と更に良化する予測となっている。また、仕入れ価格のDI指数は前期50.0から今期47.3と2.7ポイント上昇幅が縮小し、次期の見通しは53.9と上昇する予測となっている。
業界動向	DI指数は前期▲3.1から今期▲30.5と27.4ポイントの悪化で、次期の見通しは▲13.1と改善する予測となっている。
受注動向（建設業）	DI指数は前期▲17.6から今期6.7と24.3ポイントの良化で、次期の見通しは▲7.1と悪化する予測となっている。
在庫量（製造業）	DI指数は前期▲3.6から今期3.7と7.3ポイントの増加で、次期の見通しは持ち合い（0.0）と減少する予測となっている。

調査項目別 DIの推移

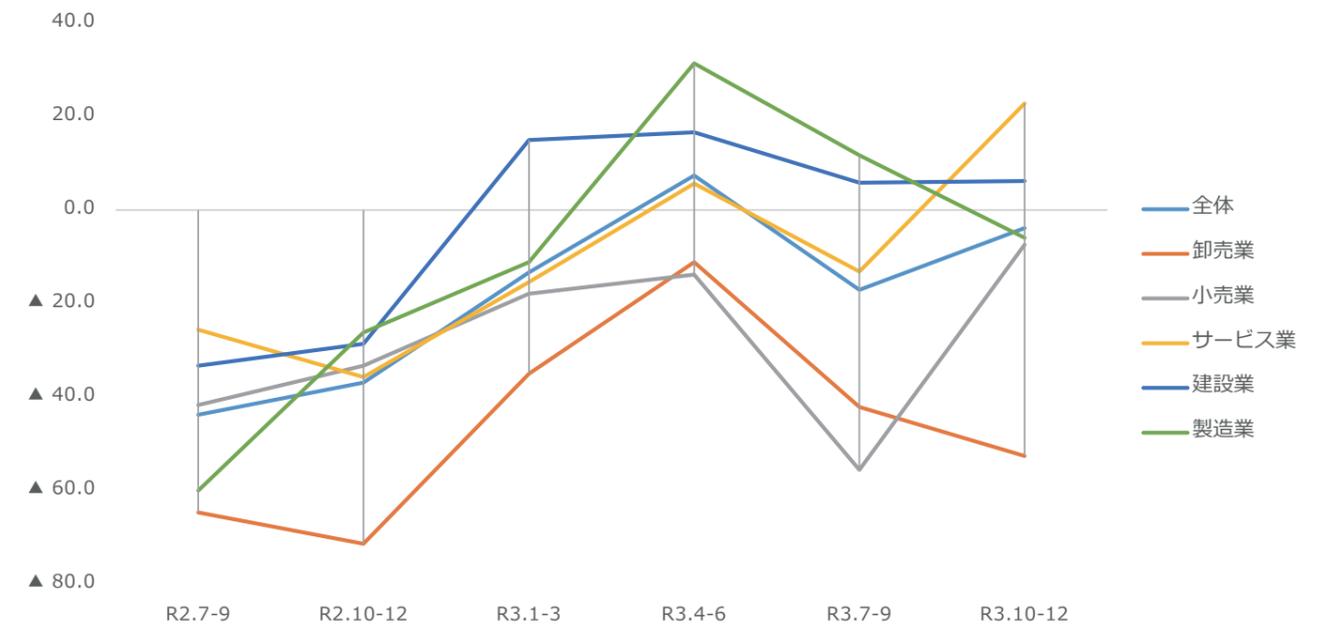
	R2.7-R2.9	R2.10-R2.12	R3.1-R3.3	R3.4-R3.6	R3.7-R3.9	R3.10-R3.12 見通し
業況	▲43.8	▲36.9	▲13.3	7.4	▲17.0	▲3.8
概況(前期比較)※1	○	○	○	○	×	○
売上高	▲53.8	▲36.0	▲16.1	5.9	▲14.8	▲5.3
採算(経常利益)	▲43.9	▲34.7	▲15.4	0.7	▲26.3	▲11.6
資金繰り	▲13.2	▲18.1	▲11.2	▲2.3	▲12.8	▲7.8
従業員	▲0.8	9.5	17.6	18.7	16.3	15.3
取引の問い合わせ	▲46.5	▲32.9	▲17.0	▲17.3	▲31.3	▲13.5
採算の水準	▲14.0	▲6.7	5.6	0.8	▲9.2	3.2
販売価格	▲8.4	▲8.7	4.2	12.0	17.3	20.2
仕入価格	12.4	15.0	33.8	50.0	47.3	53.9
業界動向	▲62.2	▲47.3	▲29.2	▲3.1	▲30.5	▲13.1
借入難易度(長期)	10.6	6.3	5.8	1.5	▲3.1	1.6
借入難易度(短期)	13.1	8.5	5.9	4.6	1.6	3.9
受注動向(建設業)	▲35.7	▲38.5	▲26.3	▲17.6	6.7	▲7.1
在庫量(製造業)	3.2	▲10.3	▲3.1	▲3.6	3.7	0.0

※1 業況 DI の前期と比較し、改善であれば○、横ばいであれば△、悪化であれば×になります。



業種別 業況 DIの推移

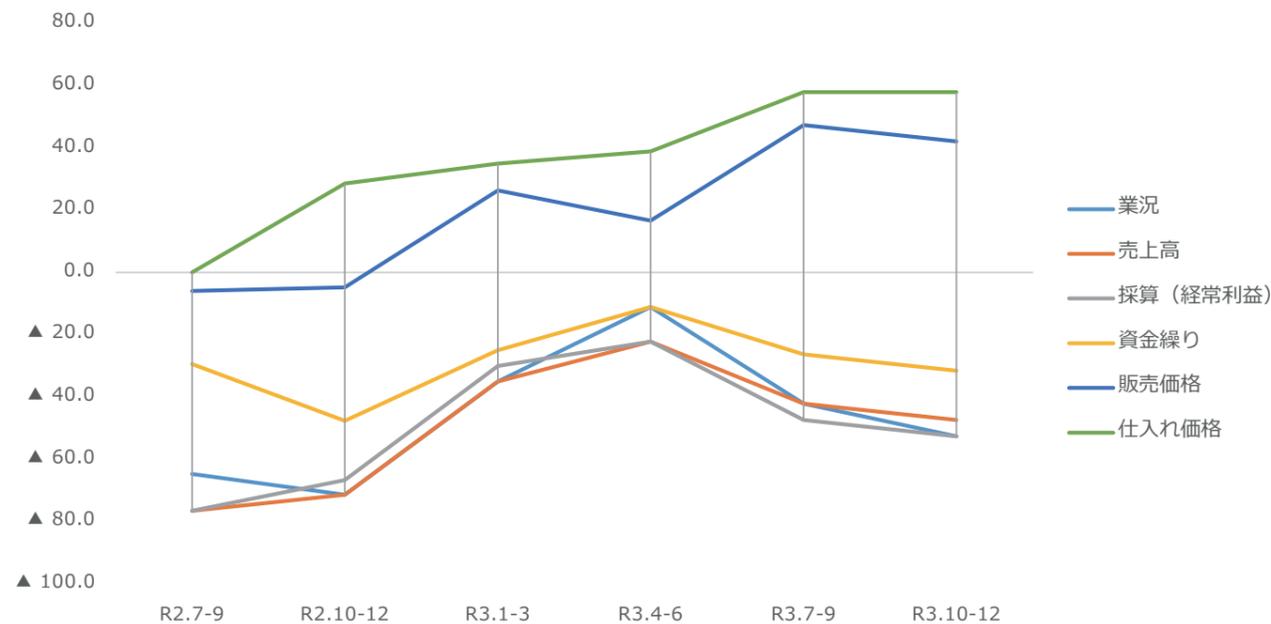
	R2.7-R2.9	R2.10-R2.12	R3.1-R3.3	R3.4-R3.6	R3.7-R3.9	R3.10-R3.12 見通し
全体	▲43.8	▲36.9	▲13.3	7.4	▲17.0	▲3.8
卸売業	▲64.7	▲71.4	▲35.0	▲11.1	▲42.1	▲52.6
小売業	▲41.7	▲33.3	▲17.9	▲13.8	▲55.6	▲7.4
サービス業	▲25.6	▲35.7	▲15.4	5.7	▲13.2	22.9
建設業	▲33.3	▲28.6	15.0	16.7	5.9	6.3
製造業	▲60.0	▲26.2	▲11.1	31.4	11.8	▲5.9



卸売業の動向

業況	DI 指数は前期▲11.1 から今期▲42.1 と 31.0 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲52.6 と更に悪化する予測となっている。
売上高	DI 指数は前期▲22.2 から今期▲42.1 と 19.9 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲47.4 と更に悪化する予測となっている。
採算（経常利益）	DI 指数は前期▲22.2 から今期▲47.4 と 25.2 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲52.6 と更に悪化する予測となっている。
資金繰り	DI 指数は前期▲11.1 から今期▲26.3 と 15.2 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲31.6 と更に悪化する予測となっている。
販売価格及び仕入れ価格	販売価格の DI 指数は前期 16.7 から今期 47.4 と 30.7 ポイントの良化で、次期の見通しは 42.1 と悪化する予測となっている。仕入れ価格の DI 指数は前期 38.9 から今期 57.9 と 19.0 ポイントの上昇で、次期の見通しは 57.9 と横ばいの予測となっている。

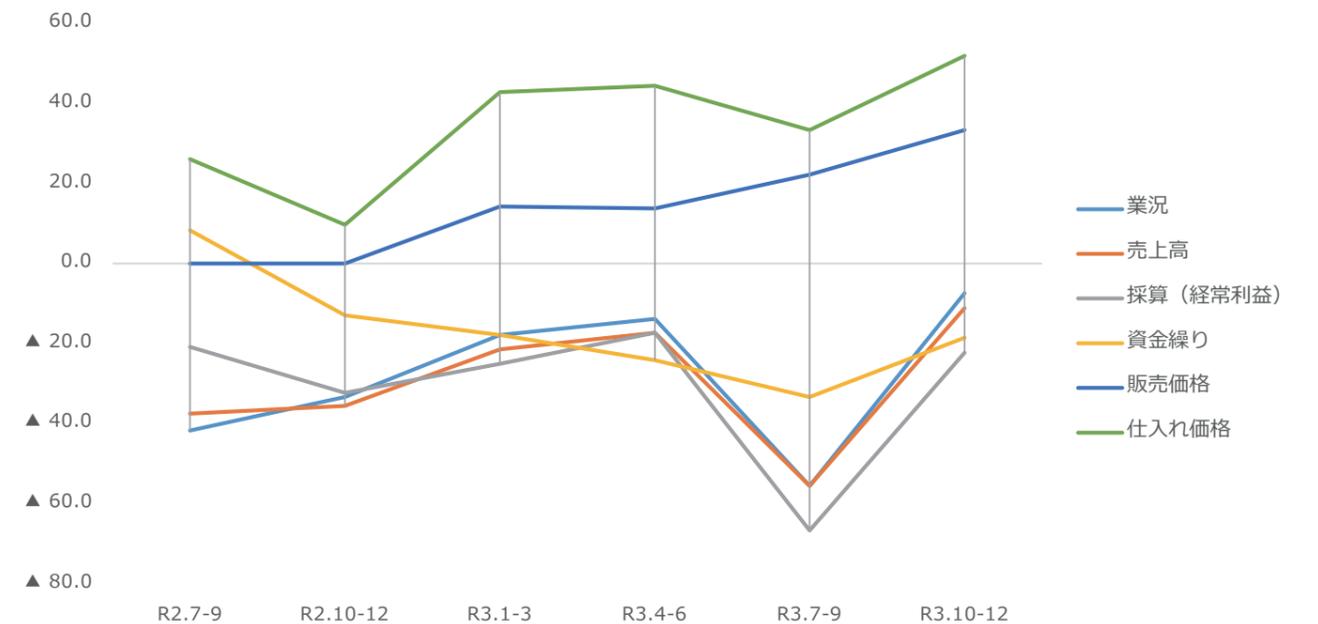
	R2.7-R2.9	R2.10-R2.12	R3.1-R3.3	R3.4-R3.6	R3.7-R3.9	R3.10-R3.12 見通し
業況	▲64.7	▲71.4	▲35.0	▲ 11.1	▲ 42.1	▲ 52.6
売上高	▲76.5	▲71.4	▲35.0	▲ 22.2	▲ 42.1	▲ 47.4
採算（経常利益）	▲76.5	▲66.7	▲30.0	▲ 22.2	▲ 47.4	▲ 52.6
資金繰り	▲29.4	▲47.6	▲25.0	▲ 11.1	▲ 26.3	▲ 31.6
販売価格	▲5.9	▲4.8	26.3	16.7	47.4	42.1
仕入れ価格	0.0	28.6	35.0	38.9	57.9	57.9



小売業の動向

業況	DI 指数は前期▲13.8 から今期▲55.6 と 41.8 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲7.4 と改善する予測となっている。
売上高	DI 指数は前期▲17.2 から今期▲55.6 と 38.4 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲11.1 と改善する予測となっている。
採算（経常利益）	DI 指数は前期▲17.2 から今期▲66.7 と 49.5 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲22.2 と改善する予測となっている。
資金繰り	DI 指数は前期▲24.1 から今期▲33.3 と 9.2 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲18.5 と改善する予測となっている。
販売価格及び仕入れ価格	販売価格の DI 指数は前期 13.8 から今期 22.2 と 8.4 ポイントの良化で、次期の見通しは 33.3 と更に良化する予測となっている。仕入れ価格の DI 指数は前期 44.4 から今期 33.3 と 11.1 ポイント上昇幅が縮小し、次期の見通しは 51.9 と上昇する予測となっている。

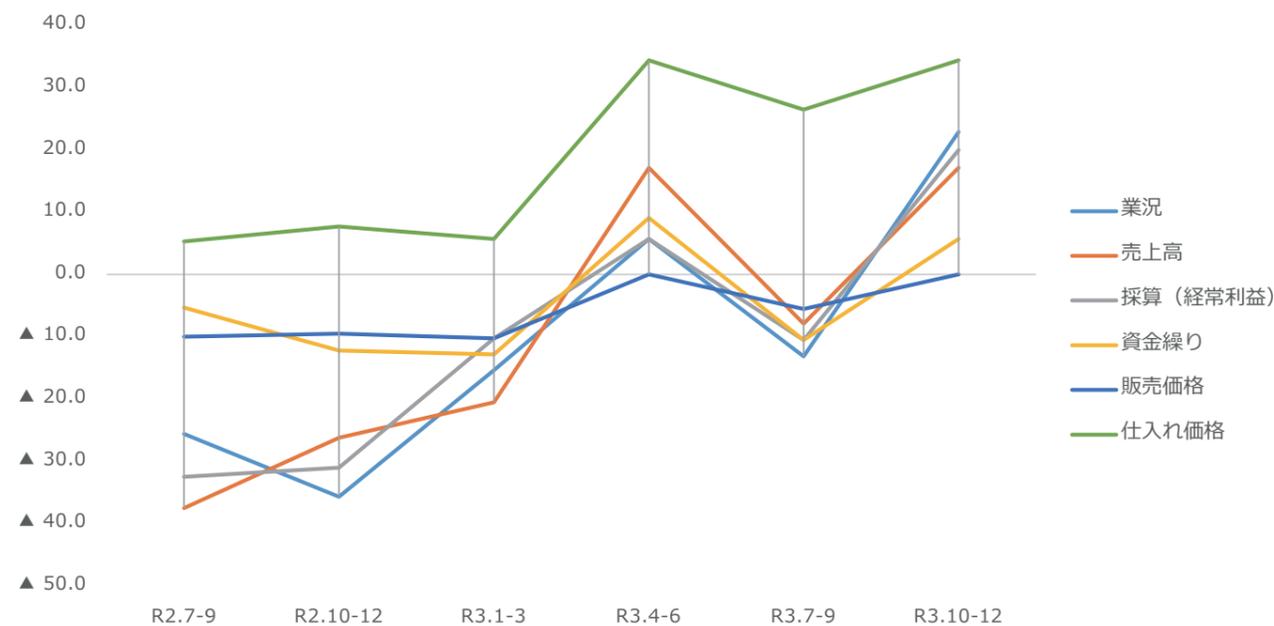
	R2.7-R2.9	R2.10-R2.12	R3.1-R3.3	R3.4-R3.6	R3.7-R3.9	R3.10-R3.12 見通し
業況	▲41.7	▲33.3	▲17.9	▲ 13.8	▲ 55.6	▲ 7.4
売上高	▲37.5	▲35.5	▲21.4	▲ 17.2	▲ 55.6	▲ 11.1
採算（経常利益）	▲20.8	▲32.3	▲25.0	▲ 17.2	▲ 66.7	▲ 22.2
資金繰り	8.3	▲12.9	▲17.9	▲ 24.1	▲ 33.3	▲ 18.5
販売価格	0.0	0.0	14.3	13.8	22.2	33.3
仕入れ価格	26.1	9.7	42.9	44.4	33.3	51.9



サービス業の動向

業況	DI 指数は前期 5.7 から今期▲13.2 と 18.9 ポイントの悪化で、次期の見通しは 22.9 と良化する予測となっている。
売上高	DI 指数は前期 17.1 から今期▲7.9 と 25.0 ポイントの悪化で、次期の見通しは 17.1 と良化する予測となっている。
採算（経常利益）	DI 指数は前期 5.7 から今期▲10.5 と 16.2 ポイントの悪化で、次期の見通しは 20.0 と良化する予測となっている。
資金繰り	DI 指数は前期 9.1 から今期▲10.5 と 19.6 ポイントの悪化で、次期の見通しは 5.7 と良化する予測となっている。
販売価格及び仕入れ価格	販売価格の DI 指数は前期もちあい(0.0)から今期▲5.6 で 5.6 ポイントの悪化で、次期の見通しはもちあい(0.0)と良化する予測となっている。仕入れ価格の DI 指数は前期 34.4 から今期 26.5 と 7.9 ポイント上昇幅が縮小し、次期の見通しは 34.4 と上昇する予測となっている。

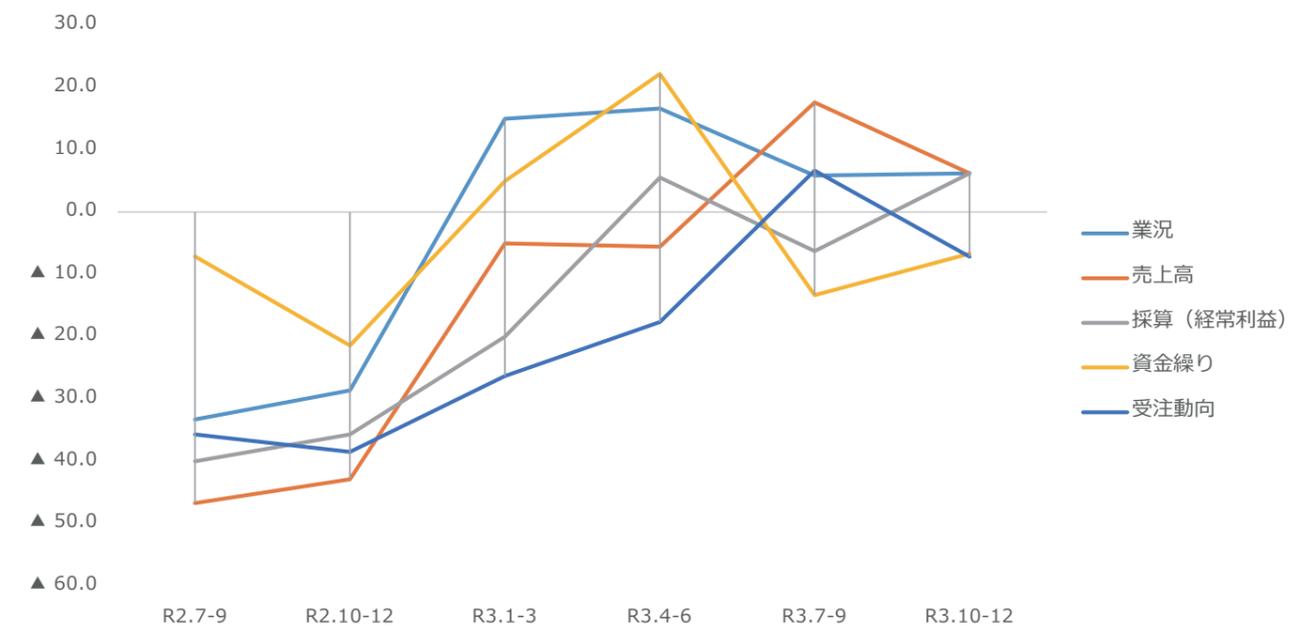
	R2.7-R2.9	R2.10-R2.12	R3.1-R3.3	R3.4-R3.6	R3.7-R3.9	R3.10-R3.12 見通し
業況	▲25.6	▲35.7	▲15.4	5.7	▲13.2	22.9
売上高	▲37.5	▲26.2	▲20.5	17.1	▲7.9	17.1
採算（経常利益）	▲32.5	▲31.0	▲10.3	5.7	▲10.5	20.0
資金繰り	▲5.3	▲12.2	▲12.8	9.1	▲10.5	5.7
販売価格	▲10.0	▲9.5	▲10.3	0.0	▲5.6	0.0
仕入れ価格	5.3	7.7	5.7	34.4	26.5	34.4



建設業の動向

業況	DI 指数は前期 16.7 から今期 5.9 と 10.8 ポイントの悪化で、次期の見通しは 6.3 と良化する予測となっている。
売上高	DI 指数は前期▲5.6 から今期 17.6 と 23.2 ポイントの良化で、次期の見通しは 6.3 と悪化する予測となっている。
採算（経常利益）	DI 指数は前期 5.6 から今期▲6.3 と 11.9 ポイントの悪化で、次期の見通しは 6.3 と良化する予測となっている。
資金繰り	DI 指数は前期 22.2 から今期▲13.3 と 35.5 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲6.7 と改善する予測となっている。
受注動向	DI 指数は前期▲17.6 から今期 6.7 と 24.3 ポイントの良化で、次期の見通しは▲7.1 と悪化する予測となっている。

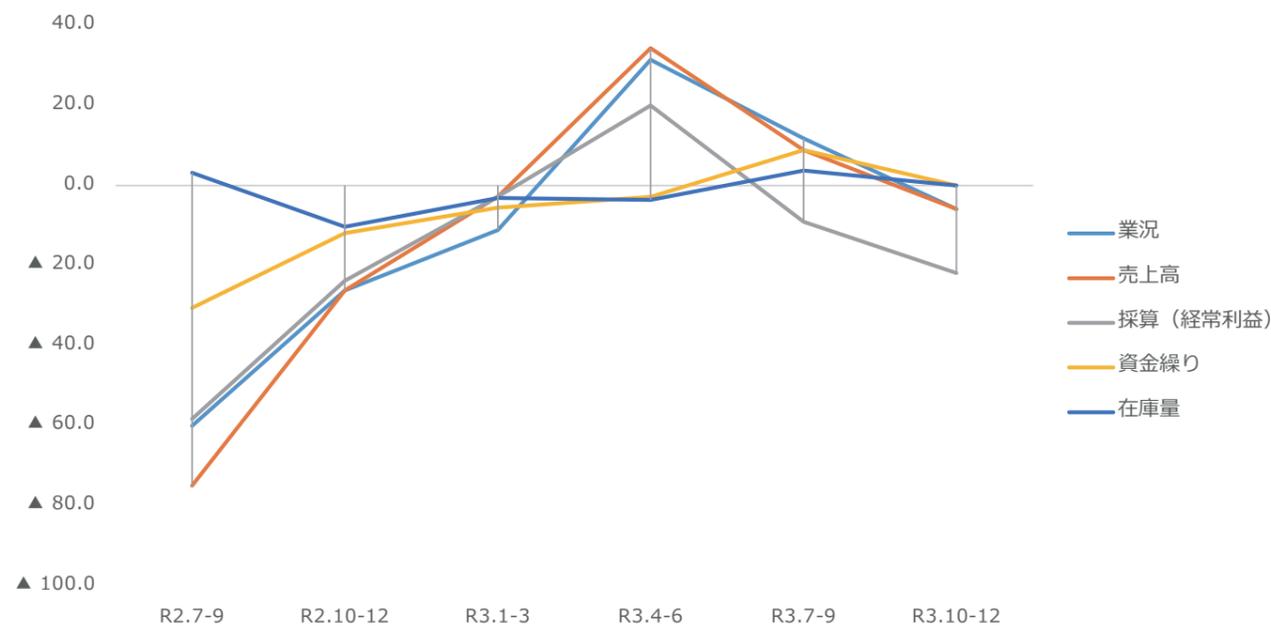
	R2.7-R2.9	R2.10-R2.12	R3.1-R3.3	R3.4-R3.6	R3.7-R3.9	R3.10-R3.12 見通し
業況	▲33.3	▲28.6	15.0	16.7	5.9	6.3
売上高	▲46.7	▲42.9	▲5.0	▲5.6	17.6	6.3
採算（経常利益）	▲40.0	▲35.7	▲20.0	5.6	▲6.3	6.3
資金繰り	▲7.1	▲21.4	5.0	22.2	▲13.3	▲6.7
受注動向	▲35.7	▲38.5	▲26.3	▲17.6	6.7	▲7.1



製造業の動向

業況	DI 指数は前期 31.4 から今期 11.8 と 19.6 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲5.9 と更に悪化する予測となっている。
売上高	DI 指数は前期 34.3 から今期 8.8 と 25.5 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲5.9 と更に悪化する予測となっている。
採算（経常利益）	DI 指数は前期 20.0 から今期▲9.1 と 29.1 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲21.9 と更に悪化する予測となっている。
資金繰り	DI 指数は前期▲2.9 から今期 8.8 と 11.7 ポイントの良化で、次期の見通しは持ち合い(0.0)と悪化する予測となっている。
在庫量	DI 指数は前期▲3.6 から今期 3.7 と 7.3 ポイントの増加で、次期の見通しは持ち合い(0.0)と減少する予測となっている。

	R2.7-R2.9	R2.10-R2.12	R3.1-R3.3	R3.4-R3.6	R3.7-R3.9	R3.10-R3.12 見通し
業況	▲60.0	▲26.2	▲11.1	31.4	11.8	▲5.9
売上高	▲75.0	▲26.2	▲2.8	34.3	8.8	▲5.9
採算（経常利益）	▲58.3	▲23.8	▲2.8	20.0	▲9.1	▲21.9
資金繰り	▲30.6	▲11.9	▲5.6	▲2.9	8.8	0.0
在庫量	3.2	▲10.3	▲3.1	▲3.6	3.7	0.0



設備投資の計画状況

1) 設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	8	3	9	5	19	44
なし	11	23	29	12	14	89
合計	19	26	38	17	33	133

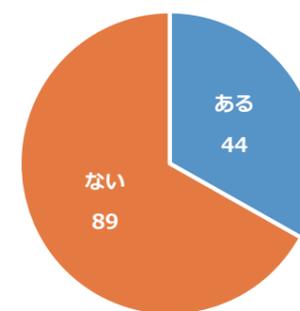
2) 設問1)で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り行う	6	2	6	4	16	34
景気動向によって見直す	2	1	2	1	3	9
見直す	0	0	1	0	0	1
合計	8	3	9	5	19	44

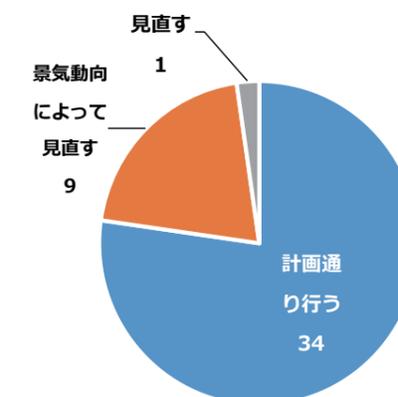
3) 設問1)で「あり」と答えた場合、計画の内容について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	1	0	0	0	5	6
設備更新	5	3	6	3	6	23
生産力増加	1	0	1	2	8	12
その他	1	0	2	0	0	3
合計	8	3	9	5	19	44

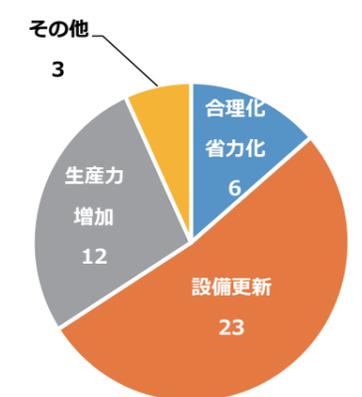
1)設備投資の有無



2)計画の実行について



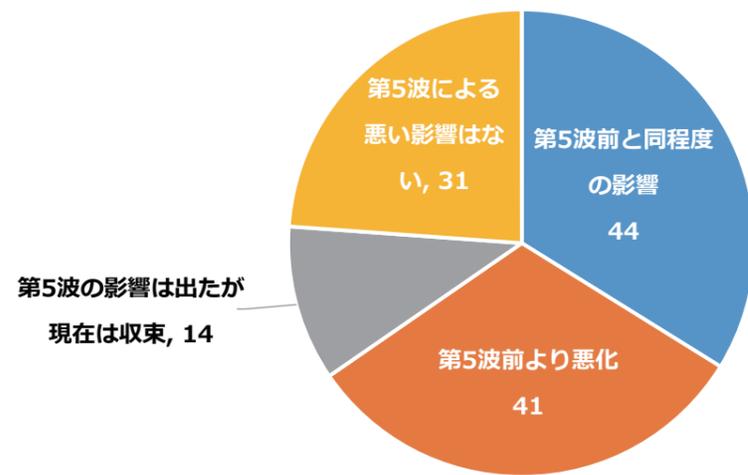
3)計画の内容について



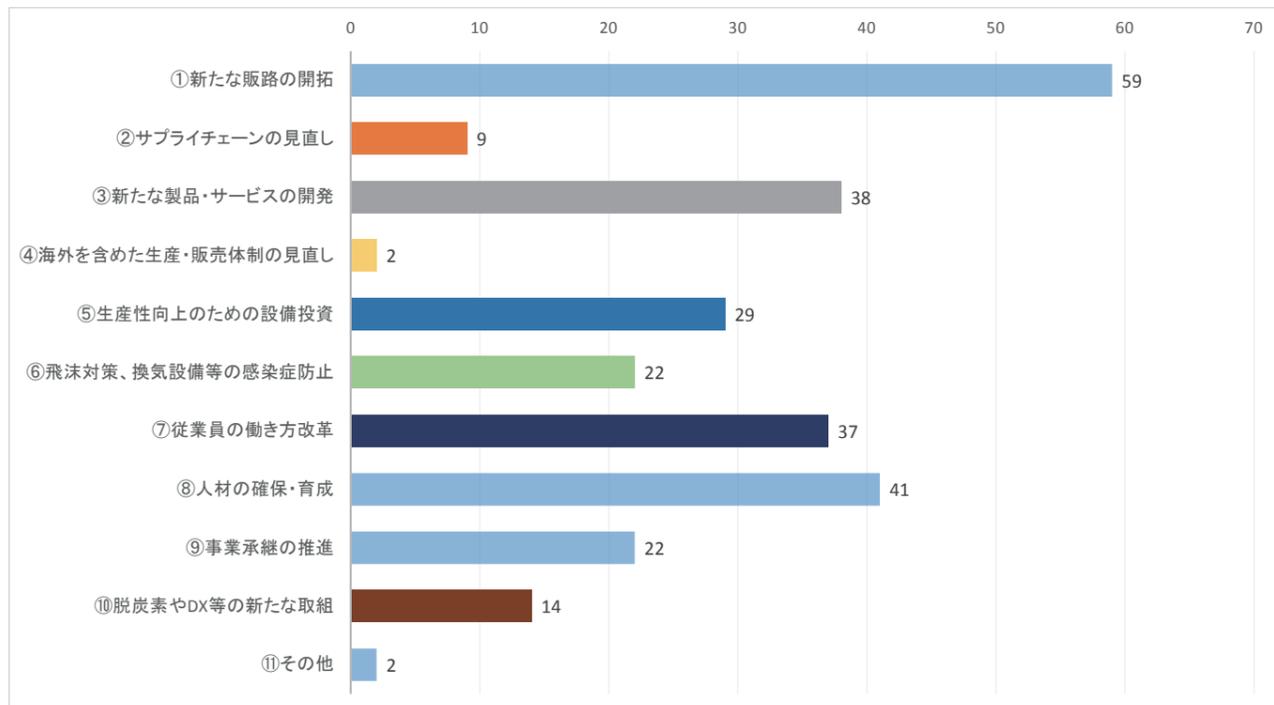
新型コロナウイルス感染拡大に係る影響について

1) コロナ「第5波」(まん延防止等重点措置・緊急事態措置)を受けて事業活動への影響について。

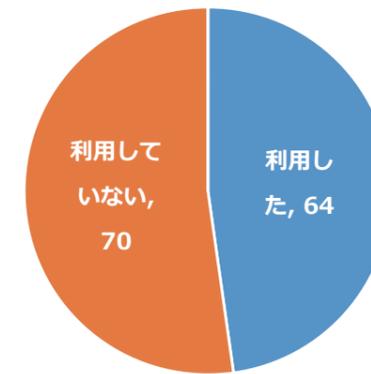
	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
第5波前と同程度の影響が継続	10	6	14	2	12	44
第5波前より悪化	7	16	9	1	8	41
第5波の影響は出たが現在は収束	0	4	5	1	4	14
第5波による悪い影響はない	2	0	10	12	7	31
合計	19	26	38	16	31	130



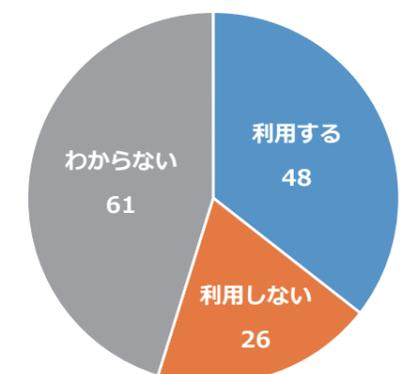
2) ポストコロナを見据えた、現在実施もしくは今後検討している取組について。



3) 長浜商工会議所でのワクチン接種を利用しましたか。



4) 第3回目のワクチン接種を長浜商工会議所で実施する場合、利用しますか。



5) 長浜商工会議所でのワクチン接種について、ご意見、ご要望がございましたらお聞かせください。

- ・国からの供給次第ですが、早く打てるようなら利用するかもしれません。直前に延期となるとどうなるかわかりません。
- ・もう少し早ければ良かった。
- ・一度延期になり受ける人数が減少してしまい残念。
- ・利用しやすく大変良かった。
- ・利用しなかったが職域接種に取り組んでいただいた事には敬意を表する。
- ・2回目の接種日について決定してから変更があり、実施しない日は事前に決めて下さい。
- ・すぐに打っていただけて良かった。
- ・開始が遅れた事により、大変だったと思います。そのような中で丁寧に対応頂き有難うございました。
- ・長浜市では予約が取れる日程が遅かったが、会議所では敏速に接種可能で大変助かった。
- ・好評だった。ただ時期がずれたため自ら会場を探した方や会社もあった。
- ・当店は既に接種済みであったが、関係者には良い情報を与えられた。
- ・従業員家族から、近くの開業医での申込がいっぱい予約できず困っていたのでありがたかった。
- ・大変助かり感謝しています。今後ともお願いします。
- ・接種の機会を設けていただき有難うございました。
- ・ワクチン接種大変助かりました。
- ・スムーズに利用でき良かった。

業種別自由意見

●卸売業

- ・岸田体制ができホッとしています。経済の直しが言われていますが、単なる人気とりの政治をされては困る。
- ・ウッドショック継続中。今のところ見通し立たず。
- ・ワクチン接種も進んできており、経済活動は戻していくべきだと思います。まずは指定感染症のランクを引き下げ、事業活動に影響を及ぼさないようにしていくべきだと思います。
- ・仕入先の販売見通しの結果、配送便の停止を受ける状況となり、従来の販売ができなくなる状況が生まれつつある。
- ・建設資材の経験した事のない価格急上昇と、品不足による業界の不透明な情勢。
- ・鉄製品の度重なる値上、化成品の値上、建築関係の商品は全てにおいて値上している。売上はそれほど変化がないが、値上の分利益が逼迫している。また、半導体不足による商品の欠品も大きな問題になっている。

●小売業

- ・緊急事態宣言下では飲食店への納入が減ったが、今後は解除されたので期待したいと思う。
- ・このタイミングで最低賃金の上昇はきついです。
- ・7月~9月にかけて緊急事態宣言が続いた為、売上は低迷しました。10月から長浜市に企画されているPayPayで売上安定すると思います。
- ・ポストコロナを見据えた新たな社会的経済的なムーブメントを起こす必要あり。冠婚葬祭の変容と簡素化により、村落を中心とする地域社会の在りようも確実に変わると思う。

【参考】滋賀県景況調査結果報告書

滋賀県では、県内の景気動向の把握を目的として、四半期毎に景況調査を実施しております。今期（令和3年7～9月期）の調査結果の概要は次のとおりです。過去の景況調査報告書については、滋賀県公式HPをご覧ください。
 滋賀県公式HP：<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/syougyou/300168.html>

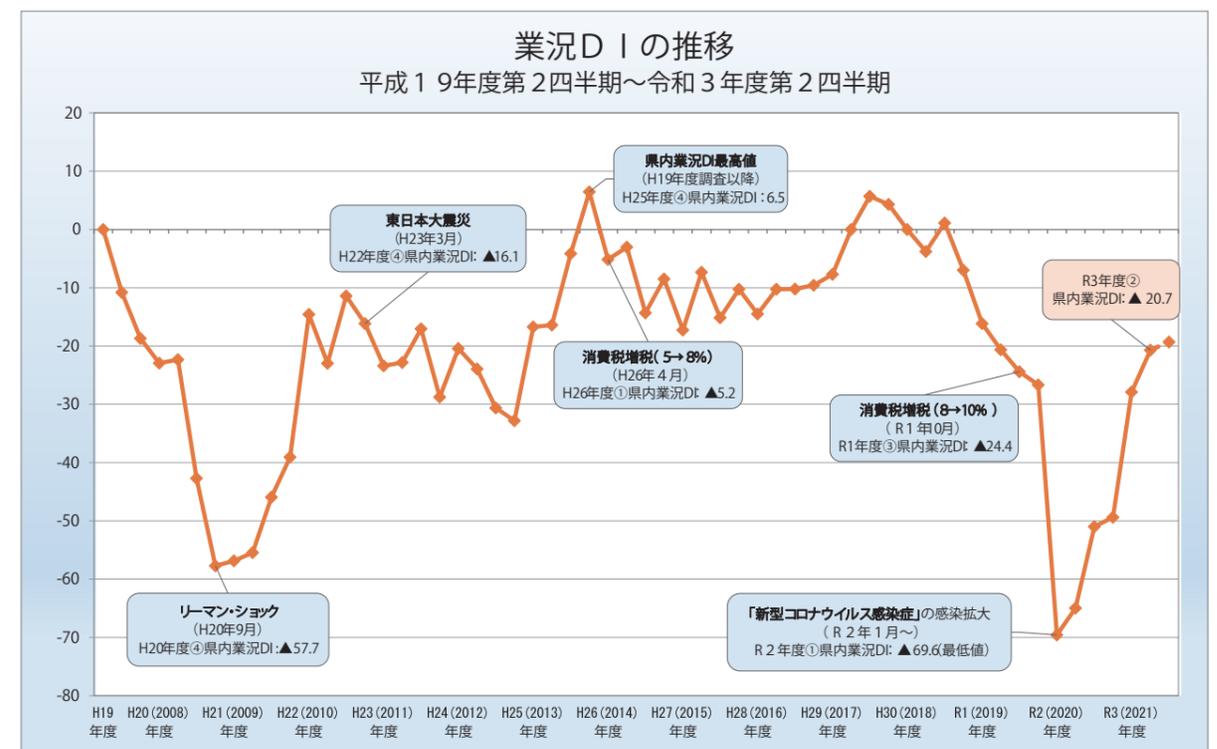
【調査概要】

- ①回答受付期間：令和3年8月19日～9月9日
- ②調査対象企業数：県内の事業所(750社)
- ③送付方法：郵送アンケート
- ④回答企業数：329社(回答率43.9%) ※大企業33社、中小企業296社(うち小規模事業者128社)

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
大企業	18	2	0	4	9	33
中小企業	114	46	16	32	88	296
合計	132	48	16	36	97	329
(業種別比率)	40.1%	14.6%	4.9%	10.9%	29.5%	100.0%

【結果の概要】

- ・県内企業における今期の業況DIは、全体では▲20.7と前期比7.2ポイント改善した。来期の業況DIについても、▲19.3と緩やかに回復する見通しである。
 - ・今期の生産・売上・経常利益の各DIは改善し、雇用の水準DIではマイナス幅が拡大して不足感が強まった。来期は、引き続き雇用の不足感が強まる一方、生産DIはマイナスに転じ、売上・経常利益の各DIはマイナス幅が拡大する見通し。
 - ・規模別の業況DIでは、大企業が18.2とプラス幅が拡大。一方、中小企業(小規模事業者を含む)は▲25.0とマイナス幅が縮小したものの企業規模によって景況感に違いがみられる。
 - ・業種別の業況DIでは、製造業が▲4.5とマイナス幅が縮小。一方、小売業▲41.7、サービス業▲34.0であり、業種によっても景況感に違いがみられる。
- ※本調査でのDI(ディフュージョン・インデックス)：「増加(好転・上昇・過剰等)」と回答した事業所数の構成比から「減少(悪化・低下・不足等)」と回答した事業所数の構成比を差し引いた値である。
 ※今期：令和3年7～9月、来期：令和3年10～12月
 ※業況、生産、売上、経常利益、在庫数量は昨年同時期と比較した回答、資金繰り、引合い、雇用の水準は今期と来期の状況についての回答である。



- ・原材料の仕入価格が上がってきている。今後も続きそう。売上の激的な回復は望めそうもないので、収益を確保する為には値上げも必要となる見込み。
- ・一度変化した消費動向は、なかなか戻らない。新しい事業や見通しが必要になる。厳しいと思います。
- ・原油高と円安で原油価格が上昇し、経済反転に悪影響を与えないか心配。
- ・商店街の来客は、緊急事態措置の影響で大幅に減った。10月～11月は長浜市のPayPayキャンペーンで活況を呈することを期待しています。
- ・色々な事態が様変わりしていて、現状がつかめないのが現在の状況です。
- ・アフターコロナの消費行動は、著しく変化していくと思う。コロナ禍で衰弱した消費を取り戻すため、メーカーもインターネットを活用した直接販売(メーカーから消費者にダイレクトに販売)に力を入れていくと予想
- ・長浜市とPayPayが取り組むキャンペーン効果は、地元客は元より観光客にも消費喚起の効果は大きい。
- ・原材料の値上がりが問題。
- ・行動制限ありきの政策を推し進め、中小企業には保障がほとんどないというのが今年の状況であった。景気をよくするためには、ワクチン云々の前に、経済の流通を活発化させること、そのための資金を支援することが重要である。
- ・非常事態宣言解除後は少しだけ好転したが昨年、一昨年の売りに戻らない。
- ・ワクチン接種率の上昇により明らかに人の動きが活発になったと感じるが、行事等の再開はまだ様子見の状態のように感じられ、それに伴う販売は未だ低調である。経口薬の普及により各種行事の一日も早い再開・拡大を願う。

●サービス業

- ・コロナ禍で従業員の働き方や事業継続に向けた対策を更に思案中です。
- ・各種の支援・補助策がありますが、ほとんど投資(新事業等)や融資です。飲食・サービス業では、現状維持がままならない実態の中、新たな投資への補助ではなく既存設備の修繕・改修に使える支援をお願いしたい。
- ・コロナで新しい時代を迎えた事を認識する。
- ・早く終息することを願っています。
- ・住宅産業においてウッドショックによる木材の高騰、建材の価格上昇も始まり、工事予算が高騰し、工事契約内容見直し等、ストップしたりしている。しかし大工、職人不足と建設業自体としての動向は活発なのかなとも思う。
- ・製造業は概ね順調に推移している。建設関係は資材の高騰、入荷時期の遅れなどにより工事遅延・延期がみられる。これら業種では求人厳しい状況が続いている。人材確保のための費用が増加。
- ・産業従事者によって生活状況の格差があり、従前のように戻るには数年かかりそう。従来以上にお客様に気配りが大切と考えている。飲食業は特に。
- ・ワクチン、治療薬の普及により一日も早い経済の回復を願う。回復後の常識は以前とは違っているであろうことに不安を感じる。

●建設業

- ・原材料の価格上昇を背景に、採算の確保が厳しくなる状況。今後、公共工事の発注は見込めるものの、民間工事の発注は減少傾向が見られる。
- ・建設業はかなり冬の時代、淘汰の時代に入っている。地域事業者の設備投資がかなり低調。
- ・対海外の景気動向、特に中国に影響を受けることが多い。

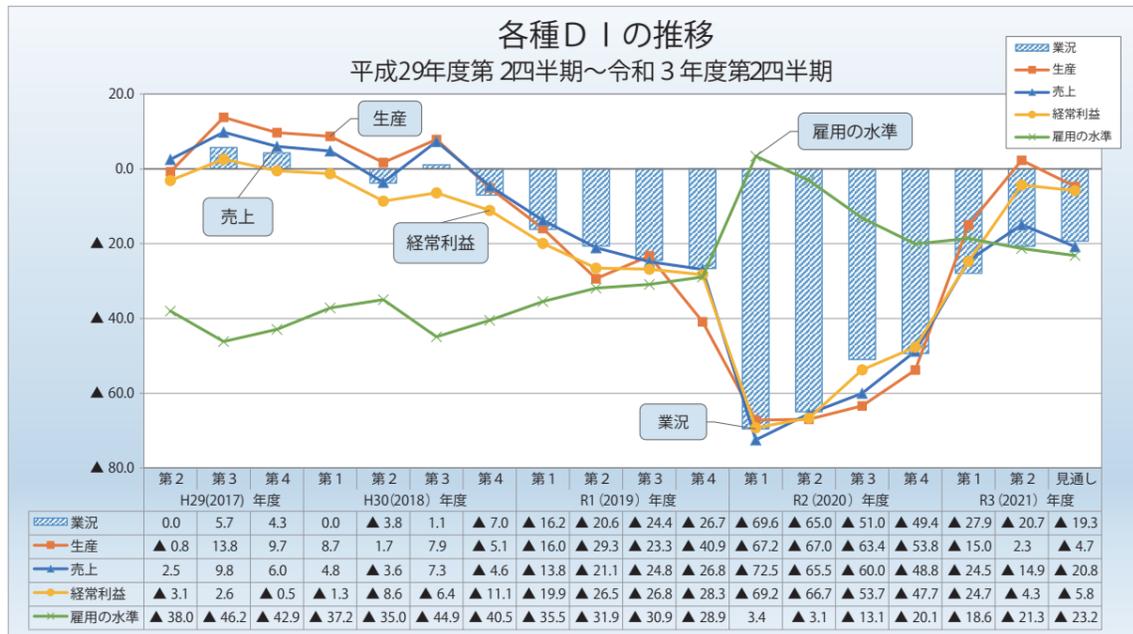
●製造業

- ・格差がありすぎるのは是正してほしい。
- ・製造業は、比較的コロナの影響は少ないと思う。今後コロナが落ち着いて、全体の景気が良くなる事を願います。
- ・ウッドショックによる原材料の入荷状況が不安定です。
- ・コロナによる東南アジア諸国のロックダウンにより、部品等の入荷が遅れている。来年度以降もこの状態が続きそうである。
- ・自動車業界は、生産が戻らず厳しい状況が続いている。新規ビジネス開拓に苦労している。展示会等出せないため、銀行のビジネスマッチングを活用している。
- ・変化の激しい情勢ではあるが、常に対応出来る企業体質を造り出すよう進める。
- ・原油はじめ原材料の高騰と世間のデフレニーズとの乖離が今後大きくなるのが不安材料。
- ・ウッドショックと共にベトナムのロックダウンによる設備資材の供給ストップが行われている。適正な利益が取れない要因と共に工期遅延で経営を圧迫している。
- ・世界的なインフレ傾向、原油高に伴う原材料の高騰が続くと思われ、価格への転嫁の課題が続きます。また湖北地域において専門技術を持った人材の確保に苦労しています。

景況調査結果報告書 (令和3年度第2四半期)



1. 調査概要 2. 全体 3. 規模別 4. 業種別 5. 追加設問

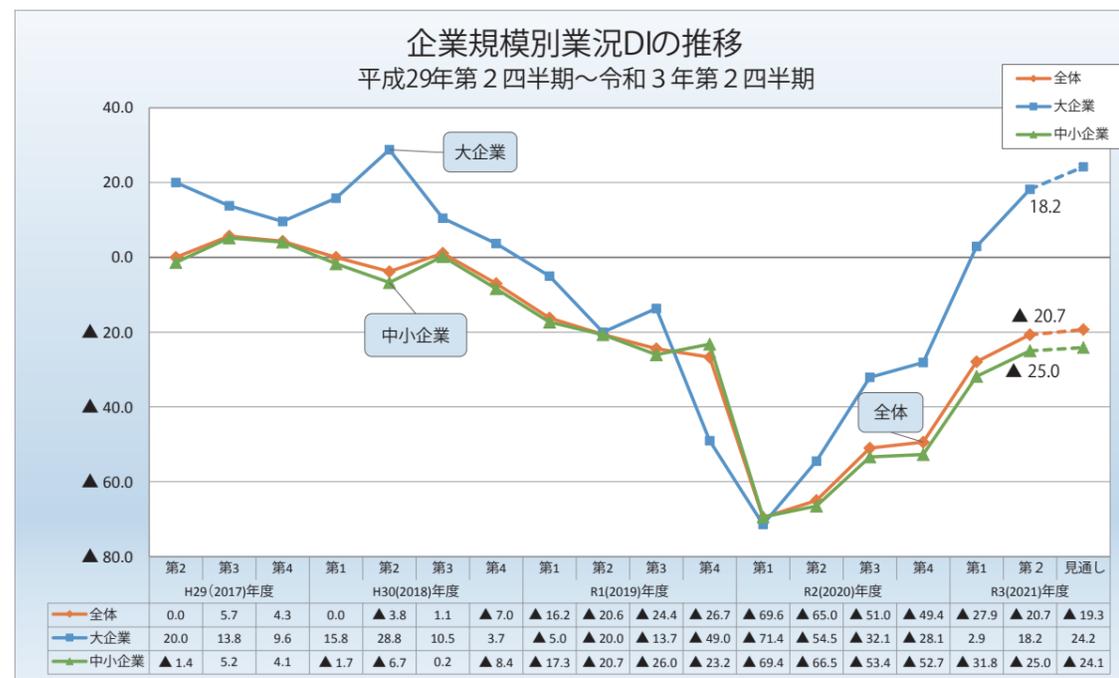


【今期 (令和3年7月～9月期) の県内企業の景況 (前年同時期との比較)】
 業況・売上・経常利益の各DIはマイナス幅が縮小し、生産DIはプラスに転じた。雇用の水準DIはマイナス幅が拡大し、不足感が強まった。
 【来期 (令和3年7月～9月期) の見通し】
 業況DIはマイナス幅が縮小する一方で、生産DIはマイナスに転じ、売上・経常利益の各DIはマイナス幅が拡大する見通し。
 雇用の水準DIはマイナス幅が拡大し、不足感が強まる見通し。

景況調査結果報告書 (令和3年度第2四半期)



1. 調査概要 2. 全体 3. 規模別 4. 業種別 5. 追加設問

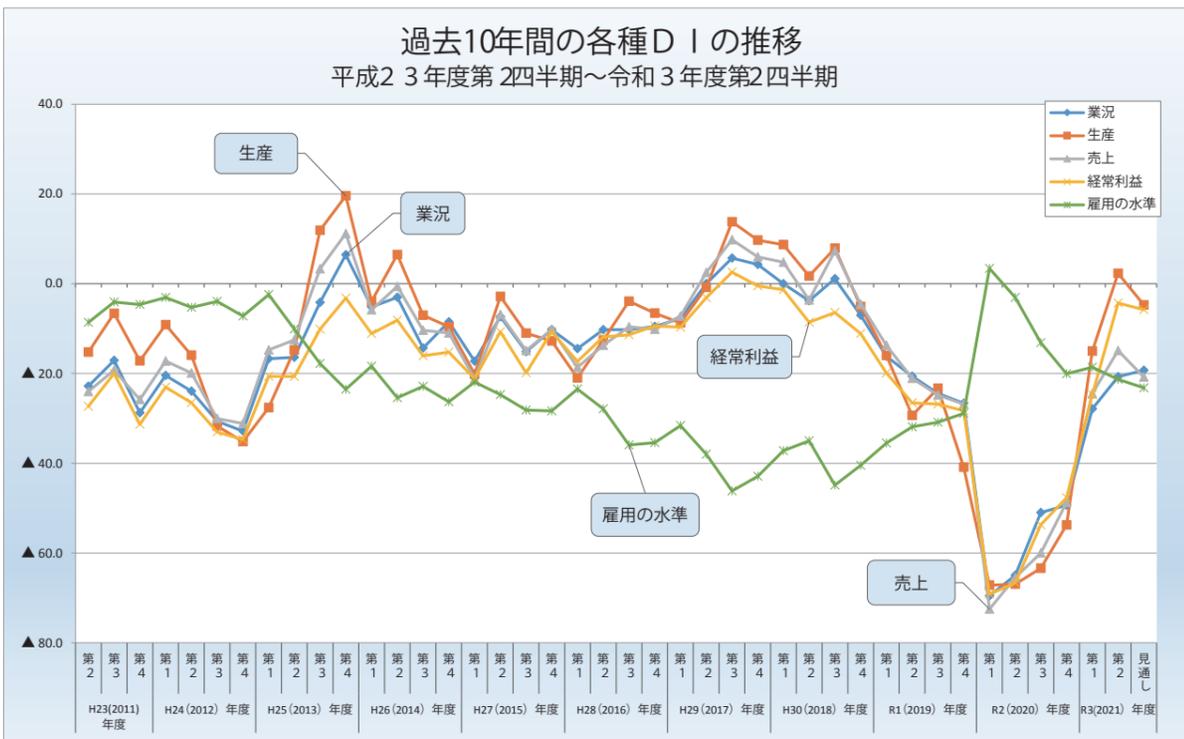


【大企業】 今期: +18.2とプラス幅が拡大した。 来期: +24.2とプラス幅が拡大する見通し。
 【中小企業】 今期: ▲25.0とマイナス幅が縮小した。 来期: ▲24.1とマイナス幅が縮小する見通し。

景況調査結果報告書 (令和3年度第2四半期)



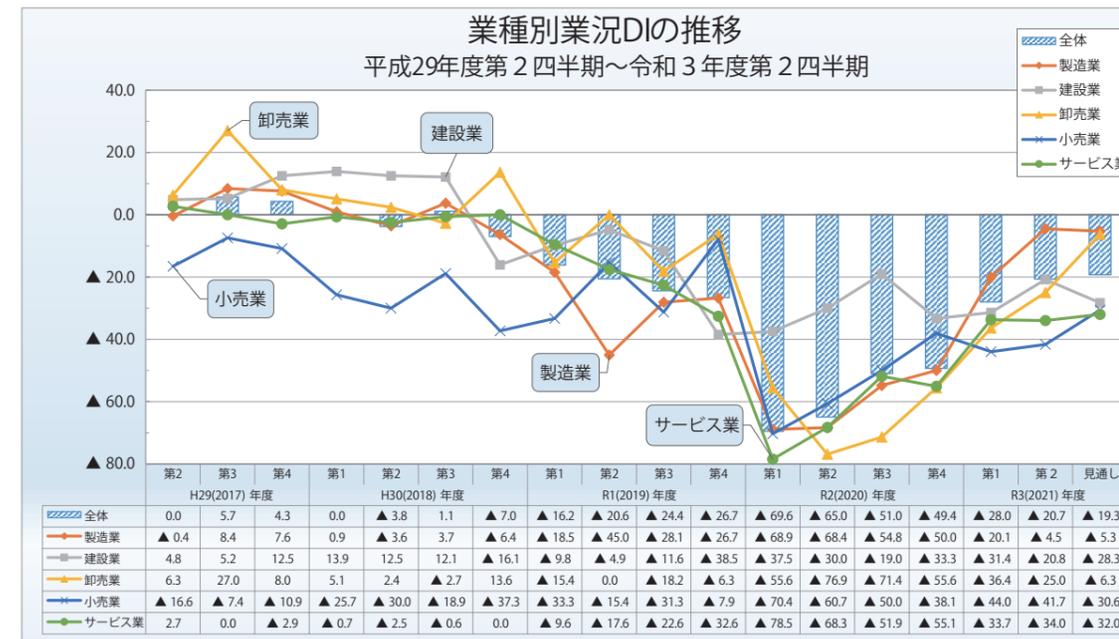
1. 調査概要 2. 全体 3. 規模別 4. 業種別 5. 追加設問



景況調査結果報告書 (令和3年度第2四半期)



1. 調査概要 2. 全体 3. 規模別 4. 業種別 5. 追加設問



【製造業】 今期: ▲4.5とマイナス幅が縮小した。 来期: ▲5.3とマイナス幅が拡大する見通し。
 【建設業】 今期: ▲20.8とマイナス幅が縮小した。 来期: ▲28.3とマイナス幅が拡大する見通し。
 【卸売業】 今期: ▲25.0とマイナス幅が縮小した。 来期: ▲6.3とマイナス幅が縮小する見通し。
 【小売業】 今期: ▲41.7とマイナス幅が拡大した。 来期: ▲30.6とマイナス幅が縮小する見通し。
 【サービス業】 今期: ▲34.0とマイナス幅が縮小した。 来期: ▲32.0とマイナス幅が縮小する見通し。